

会 議 録

1 会議名

令和3年度第7回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・令和3年度地域活動支援事業（追加募集）について（公開）

3 開催日時

令和3年8月27日（金）午後6時30分から午後7時33分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、
磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、
田村雅春、古澤悦雄、増田和昭、水澤敏夫、水島正人（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中澤会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：田中美佳副会長、田中実委員に依頼
- 議題【協議事項】令和3年度地域活動支援事業（追加募集）について、事務局へ説明を求める

【小川係長】

前回の会議で提案団体への質問事項を協議していただいた。その後4名の委員から個別質問の提出があり、それをまとめて提案団体に送付した。その回答をまとめたものを事前に送付している。本日は、提案者からの回答を踏まえ、次回開催予定の採択審査に向けた協議をお願いしたい。

【中澤会長】

それでは提案No.1から順に協議していきたいと思う。

最初に、「No.1 なおえつ うみまちアート応援 まちあるき事業」について、質疑を求めるがなし。

次に、「No.2 府中八幡宮の歴史文化財の発信事業」について、質疑を求める。

【磯田委員】

質問3、4は私である。質問3の回答では、「文化行政課は指導的立場であり、設置場所に関しては、府中八幡宮を護持する皆さんと八幡宮の文化財を愛する会の判断に委ねる」と言っていて、その是非については言及していない。言及する立場ではないという表現をしているが、指導はどのようにするのかについては触れていない。私は建築が専門で、歴史的建造物の専門家でもある立場から言うと、ここにこれを常に置くということは、社寺仏閣の格式の点、景観の点からもここに置かれては困ると思っている。それとともに、安全性の問題にも触れているわけだが、専門家と言われる方々にもヒアリングをしている。賛否はいろいろあるが、ここに置かれては良くないのではないかと、別な場所に設置するなり、別の方法を考えたほうが良いと聞いた。安全性については、枕木があって、その支柱を木で立てて、それにまた乗せる台を作るという提案になっているが、それだと非常に不安定でぐらぐらしてしまう。下の枕木みたいなものをしっかり掘り込んで乗せるだけにしたほうが良い。支柱がない状態で設置したほうが良いという話をサジェスション（提案）いただいた。皆さんの中で現場を見られた方はいらっしゃるか。あの場所に、あの長さのものをL字に置くと、基壇の部分の余白が無くなる状態になるし、見た目もよくない。あれを見せるという意味において意味があるが、あの場所に設置されるのは歴史的建造物の在りようとしても、景観としても好ましくないと思う。もし、設置するのであれば、今置いてある縁の下の手前に網が張ってある。その網を奥の方に張ってもらって、縁の下の隙間のところから十分この床を見られる状態になっている。雨も当たらないし、そこに子どもが飛び乗ることもできないし、側から歩いてい

けば、目線をちょっと下にやれば石を十分見ることができるので、そこに設置するのが今のところ一番良いと思う。飾ることについて趣旨には賛同だが、設置の場所については、提案の場所に置かれるのは止めて欲しいと思っている。

【中澤会長】

他にいかがか。

提案者は、歴史的価値が非常に高いので、何とか人に見せたいという思いが強いようである。7月の北前船フォーラムの中でも、八幡宮の^{しやくだに}笏谷石についても触れていた。できれば、きちんと見られる形で展示したいという話も出ていた。そのぐらい歴史的な価値があるのだと私は受け取った。その辺との兼ね合いとして、安全性が担保できなければ難しいと思う。

【増田委員】

磯田委員の説明でよくわかったので、採択の条件として、ここの場所でどうかと書いてもらうともっとわかりやすい。場合によっては、その条件であれば良いという採択の方法もあると思う。会長も言われたが、歴史的価値は十分にあるし、どのように見てもらうかの工夫だけだと思う。

【中澤会長】

確認するが、提案者が言っている歴史的価値を否定するわけではないというところを汲んで結論を出す必要があると思う。

次に、「No.3 直江津地区中高生支援・地域活性化事業」について、質疑を求める。

【増田委員】

質問に対する回答をみたが、ごく一部の人たちでやっていると思ってしまう。明確な議論がないので、広がりを感じられない。

人口流出を止めるようなことが書いてあるが、それは市を挙げて取り組んでいることであり、これをやれば人口流出が止まる、外から入ってくるという書き方だが、余りにも現状認識が薄いのではないか。議会でも一生懸命やっている。それを否定するようなことではなく、そういうことをやっているが「この部分をやりたい」といった丁寧な説明が感じられない。

【田村委員】

本当に大人と中・高生で話をして定住人口が増えるのか。今まで我々は何をやってきたのかと言われると身も蓋もないが、行政や他のいろいろな活動で、定住人口を増やそ

う、交流人口を増やそうとやってきている。これも1つの方法かもしれないが、まだ疑問を感じている。

【中澤会長】

昔、教員をしていたので、卒業に際しての進路選択については、いろいろ相談された。何百人という数だが、1人1人が全員事情を持っている。質問3と6に質問されていることがもう結論だと思っている。楽しいからいるわけではない。皆、経済的な事情や、家族との関係や将来への展望で進路を選んでいく。あまりにも企画の発想が幼いという印象を持っている。

次に、「No.4 《路上写真展看板製作》事業」について、補足事項があるので、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

補足説明として、11の1ページの、最後に「港湾関係者全体で50万円負担させていただくことに役員会で決定しました」という記載があるが、その記載について提案団体に確認したところ、提案書の中には書いていないが、提案書を提出後に決定したので、自主財源の部分が50万円増えて、補助金の額が50万円減るということで確認した。

【磯田委員】

この事業が採択されれば50万円減らした金額で決まるが、不採択になったとすると海鮮市場の資金になっていくという話になり、そちらの金額を調整しなくてはいけないという話なのか。50万円はあくまでこの事業のことなのかを説明してもらわないとわからない。

【田村委員】

海鮮市場となにか関係があるのか。

【小川係長】

提案団体は同じだが、事業はその事業ごとの収支になっている。

【中澤会長】

この事業だけに限って言えば、収入の項目の中にそれが記載されていなかった。もし、これが採択された場合は、地域活動支援事業の補助金は50万円を引いた額で支出する形になる。

【古澤委員】

良い看板だと思って見ていたが、この地域活動支援事業の提案前に突然外された。提

案の前に外して提案してきたのかと思っている。平成29年の時に3年で駄目になるとされているが、実際に見た感じでは、まだまだ使えるような状況だったと思ひ疑問である。この事業が採択するのを見込んでやったのではないかという気がする。それをはっきりさせたほうが良いと思う。

【田村委員】

私も疑問に思つた。あの時も景観の問題もあつたし、交通量も多いからあまり効果がないのではないかと言われたのも事実である。今回は写真だが本当に効果があるのか。壊れたから今度はコンクリート基礎でやるというのが、まずは自分たちで再建資金を作つて一部分を地域活動支援事業に出すのであれば良いが、今日50万円の資金という話を聞いたので若干考え方は変わるが、費用対効果を考えると本当にいいのか。あそこに福島城の看板もある。そんなに看板をつけても効果があるのか。

【中澤会長】

広告塔なので、広告としての効果があるのかどうか1番のポイントだと思う。地域協議会は、あくまでもソフト事業を優先するので、何らかの形でソフト事業展開してもらいたいという思いがある。そういう思いが今までずっとあるが、この事業についてはあまりソフト事業が展開されていないところが気になる。その辺を斟酌していただければと思う。

次に、「No.5 直江津地区ひとり親家族緊急支援事業」について、磯田委員より補足説明をお願いします。

【磯田委員】

今回、提案いただいた内容の社会的意義は非常に感じている。実施できるのであれば応援してあげたいと思うが、内容がよく見えてこないところがあるので、上越エリアでNPOサポートセンターが主体でやっているフードバンクじょうえつという組織があるので、そこに「おひさまパントリーはどのような団体なのか。上越全体でのフードバンクのシステム、運営が今までどのようになってきたのか」をヒアリングに行ってきた。情報共有として皆さんにお伝えしたい。

ここに書かれているのは、聞いてきた内容をそのまま記載し、ホームページ上で出ていることを補足しているので、私の思惑はここには一切入っていない。フードバンクじょうえつは、NPOサポートセンターが2020年4月に立ち上げて、上越エリアのフードバンクとして活動している。大きくは、年に4回やっている、ひとり親世帯への食

品配布がフードパントリーである。年4回の他に細かな対応もしてはいるが、全体としては、フードバンクじょうえつだけでは手が足りないというのが現実である。毎回、上越地域で約100世帯から申し込みがありニーズもある。フードバンクじょうえつ側の体制がまだまだ未熟なところもあり、地域全体をカバーしきれていない。こういう中で、手伝ってもらえる団体、あるいは、自主的にフードバンクを運営する団体が育ってきて欲しいという思いが、フードバンクじょうえつ側にもある。フードバンクじょうえつには、上越市からの補助金が出ているわけではない。一般企業の寄付金や、民間の助成金で資金を調達している。その場合には、人件費にも使えると言っていた。食品の配布については3つのパターンで配布をしていて、詳しくは読んでいただきたい。新潟県フードバンクは三条市にベースがあり、そこまで食材を取りに行かなくてはならない。フードバンクじょうえつは自分たちが資金調達した資金で取りに行っている。

今回の提案の中で、運搬費15万9,000円のうち食品運搬委託費とは、おひさまパントリーがフードバンクじょうえつに委託する運搬費用である。収支の表の下の5番目に新潟県フードバンク連絡協議会本部（三条市）にフードロス食材が備蓄されているためと記載されている。食材を取りに行く業務をフードバンクじょうえつにお願いする。そこに対しての支払いである。フードバンクじょうえつも無料ではやれないという話である。

本来は、社会福祉協議会が、もう少ししっかりやってくれば良いが、この分野にはあまり積極的に関わってきていないようで、フードバンクじょうえつが全体を担ってきている。おひさまパントリーは、今年の3月にパントリーや子ども食堂をやりたいという話をフードバンクじょうえつに相談して、体制や協力については了承を得た。フードバンクじょうえつでは、運搬費や交通費は実費負担してもらおうと説明した。

フードバンクじょうえつ側は、個別にやってくれる人達が出てきてくれることを望んでいる。とにかく上越エリアでパントリー事業を細かく実施していくには、フードバンクじょうえつだけでは限界があるので、サポート支援体制を作っていくたいとのことだった。

1つ気になったのが、今年、有田区の地域活動支援事業に提案したが不採択になって、直江津区に出したとの発言があった。その説明を事務局へ求める。

【中村センター長】

報告させていただく。確かに有田区の当初の募集に提案されていた。ただ、内容とし

て直江津区と提案内容が違うものである。具体的には、備品、テントやテーブル、椅子、炊飯器などを購入する内容だったり、調理した食事を提供する予定であったのに対し、今回は56万円という内容で補助希望額で倍ぐらいの違いがあった。また、提案内容で、食材の提供及び協力先が、直江津区の提案では具体的に10か所以上の事業所、機関が具体的に記載されていたが、有田区の場合は具体的に示されていなかった。有田区の提案時点では、まだ提案団体としてパントリー開催の実績がなかったが、この間に、有田区で1回、直江津区で1回実施した実績を持っている。有田区の採択審査の際にはヒアリングを行ったが、提案者の説明の中で食事提供を弁当に変更する場合もある、協力が得られればカルチャーセンターを会場とするという内容を変更するという説明がなされた。そのような内容から、有田区では、採択すべきとした委員が過半数に満たなかったため不採択となった。提案者には審査の過程で出された意見として、「会場や提供内容など未確定状態のものが多く、全体としてきちんとした計画となっておらず、実行性に不安がある。また、対象者の把握方法や周知方法、ボランティアの協力体制など計画が見えない。地域への浸透なども含め、実績が見えるようになってからでもいいのではないか」というような意見が出された。それを含めて有田区では不採択となったので、今回とは状況が違うことをお伝えしておきたい。

【水島委員】

前回の時に問題になったのは、直江津区ひとり親家族30世帯と対象者が一部に限られ、私は安易な計画だと思う。こういうことをやるのであれば、先ほど磯田委員がおっしゃったような深いところまで練らないと難しいと思っている。採点するにあたって、こういう提案に対して非常に厳しい目で見なければいけないと思う。他の地域でも不採択となっているので、安易に採択すべきではないと思っている。

【田村委員】

国の責任でもあると思う。前回も話したが、問題はどうやって30世帯を選ぶのか。回答に30人から50人、上越市で1,200人と書いてあるが、SNSで繋がっている人だけなのか。それが地域協議会として応援することが妥当なのか。例えば、50世帯あったと仮定して、1世帯当たり少し物が少なくなるかもしれないが、声かけだけでもやってもらった方がこの活動の意味があるのではないかと思う。

【磯田委員】

ここからは私の意見である。30世帯という数字に皆さんすごく固執しているようだ

が、そこに固執しても仕方がないと思う。30が35になったり、あるいは50になったりは、それをやっていけばそのようになってくるし、少なくとも直江津区で出している、直江津エリアの把握できているひとり親世帯の人達が30から50ぐらいというところと思う。フードバンクじょうえつとしては、糸魚川、妙高、上越でもやっているが、ここは、まず直江津でやっていく。それぞれのエリアで、それぞれの人たちが出てくればより楽になって、厚いカバーができていくと思う。そういう意味では数にあまり固執しなくても良いと思う。私は、備品の購入費や通信費、運搬費の金額が疑問だった。それは、ヒアリングに行つてある程度解消された。食材が、玄米であり、それを精米して分配するためには小袋に詰めるという作業も必要になってくる。そういう意味では、いただいたものを動かしたりしないといけないものとか、保存させておくためのクーラーも必要なものだというのはわかった。必要な備品を提案者が、地域活動支援事業で持たなくてはならないものなのかの判断は微妙だが、この団体の将来に託して、この事業を1年で終わらせるのではなくて続けていってもらいたいと思う。

少なくとも30人の人たちが、これによって恩恵を受ける可能性が非常に高い事業だと思う。

【増田委員】

必要な事業だということは誰もが認めると思う。ただ、計画性について疑問がかなりある。かなり詳しい質問をしているが、質問にまともに答えていない。例えば、「通信費の必要性を具体的に説明してください」に対して説明していない。運搬委託費も磯田委員の説明を聞いてわかった。それも書いてない。ガソリン代も1km15円と書いてあるが、提案書には30円で計算してある。計画がずさんな部分がある。

フードバンクじょうえつと住みわけができていない。回答の12ページに「フードバンクじょうえつと重なる月は、どちらかに来てくださいますとお知らせをさせていただいています」とあるが、フードバンクじょうえつに聞いたら、そんなことはやっていない。この団体が「このようにします」とはっきり言えば良いが、そこまで考えていない。本来は、住みわけをしなければいけない。

上越市にひとり親世帯が約1,200世帯あるが、フードバンクじょうえつが把握しているのは、200世帯だけである。では、他の人たちはどうするのか考えが及んでいない。一部の人たちだけのことを考えてやるという考えはいかがなものか。

【中澤会長】

他にいかがか。

発展性はどうかである。

【古澤委員】

いろいろな意見をお聞きしたが、個々の判断で採点をつけていただきたい。

【中澤会長】

次に、「No.6 ブルーライト・なおえつプロジェクト2021事業」について質疑を求めるがなし。

次に、「No.7 直江津地区妊娠期応援事業」について、質疑を求める。

【増田委員】

直江津区で100人近い妊婦さんがいると書いてあるが勘違いしてはいけない。皆さんが全部これを希望しているわけではない。そのうちの何人が希望しているか、はっきり数字が出ていない。妊婦数が多く書いてあることが気になっている。

それから、地域経済化の視点からと書いてあるが、そのように言っているのか。全然視点が違うと考えざるを得ない。

もう1つは、「市の担当者との打合せを今後やっていく」書いてあるが、「どこにどういう問題があって、私たちはこれをやります」と的確にとらえられていない。

最後に、直江津子育て応援団にと書いてあるが、「子育て応援団の見通しはどうか」という質問に「現在、見通しは立っていない」とある。ある程度の感触を得た上でやるなら良いが、全く見通しを立てていなくて、地域活動支援事業で認められたら、チラシを作って話を持っていく。計画性から言うとかかなり欠けるのではないか。本来これは、市役所もやっているが、マミーズネットもやっている。その辺との連携がもう一つ取れない部分があって、自分達の思いだけで進んでいる。必要性は十分に理解できるが計画性に疑問を感じる。

【中澤会長】

他にいかがか。

【磯田委員】

将来的にNPO化を目指していくようなことも書いてあるし、この事業自体の支出収支のところを見ても、自主的に自分たちが一生懸命やっていくというのは、提案書や支出の話を見ても納得いく部分はある。この事業の主旨と市民活動をこれからやろうと思っている方々なので、私はエールを送りたいと思っている。

【中澤会長】

次に、「No.8 『恋人の聖地』モニュメント制作事業」について、質疑を求めるがなし。
他に意見等ないので協議事項については終了とする。

【小川係長】

- ・今後の進め方について説明

【中澤会長】

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・次回協議会：9月2日（木）午後6時30分から

【中澤会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。